

The 12th International Congress of Vertebrate Morphology に参加して

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科  
武智 正樹

2019年7月21日から25日までチェコ共和国プラハで行われた The 12th International Congress of Vertebrate Morphology (ICVM12) に参加しました。ICVM12は脊椎動物の形態学に関する世界中の研究者が集う学会であり、12回目の今回は700名以上の参加者が集まりました。私は遺伝子組み換えマウスを用いて頭蓋顎顔面に生じる先天性形態異常の発生学的成因を研究しており、「かたち」をどのように正確に捉えるかということ是非常に重要なテーマの一つです。マウス頭蓋の定量的な形態測定法の先駆者であるペンシルバニア州立大学の Richtsmeier 博士の発表は大変勉強になりました。ロンドン大学キングス・カレッジの Green 博士は近年開発された最新の形態測定法について詳しく解説してくれました。また、現在我々は頭蓋顎顔面の先天性疾患の中でも近年特に注目されているスプライソソーム症について疾患モデルマウスを用いた研究を現在進めておりますが、同様の研究を遂行しているマサチューセッツ大学の Fish 博士とは研究内容について多くの有益な議論を交わすことができました。私自身は、”Similarities and differences of tympanic membrane development in mammals and diapsids”というタイトルで中耳における鼓膜の発生学的解析についての発表をしましたが、ポスターに興味を持って足を止めてくれた参加者と深く議論することができ、新しい視点から自分の研究を振り返ることができました。今年の欧州は各地で猛暑が続いており、プラハも連日 30℃を超える暑さでしたが、今も美しい街並みを残す古都で多くの刺激的な時間を過ごすことができました。このような貴重な国際学会発表の機会をサポートしていただきました日本先天異常学会の皆様方に心より御礼申し上げます。